



2012年9月7日

各位

会社名 大日本住友製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 多田 正世
(コード：4506、東証・大証第1部)
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部長 樋口 敦子
(TEL. 06-6203-1407)

非定型抗精神病薬「LATUDA®(ルラシドン塩酸塩)」の 米国における双極Ⅰ型障害うつに対する適応追加申請について

大日本住友製薬株式会社（本社：大阪市、社長：多田 正世）の米国子会社であるサノビオン社は、米国において統合失調症治療剤として販売中の非定型抗精神病薬「LATUDA®(一般名：ルラシドン塩酸塩)」について、成人の双極Ⅰ型障害うつに対する単剤療法およびリチウムまたはバルプロ酸との併用療法の2つの適応追加申請を米国食品医薬品局（FDA）に提出しましたので、お知らせします。

このたびの申請には、双極Ⅰ型障害うつの患者さん852例を対象とした、2本の6週間投与プラセボ対照二重盲検第Ⅲ相試験（PREVAIL 1およびPREVAIL 2試験）の結果が含まれています。

サノビオン社の Vice Chair である野村 博は次のように述べています。「LATUDA®が双極Ⅰ型障害うつに対する単剤療法および併用療法の承認を取得した場合、両方の承認を持つ初めての非定型抗精神病薬となります。当社は、深刻な精神疾患の患者さんに新たな治療薬を提供することに努めており、その一環として PREVAIL 試験を実施してきました。」

サノビオン社の Executive Vice President and CMO である Antony Loebel（アントニー・ローベル）は次のように述べています。「双極Ⅰ型障害うつは、多くの患者さんの生活を大きく妨げる衰弱性の疾患です。また、現時点では、臨床試験において有効性が証明された薬剤はほとんどない疾患でもあります。PREVAIL 1 および PREVAIL 2 試験の結果は、LATUDA®が成人の双極Ⅰ型障害うつの患者さんにとって有用な治療選択肢となる可能性を示しています。」

なお、PREVAIL 1 および PREVAIL 2 試験の結果については2012年4月24日に開示しています。

以上

(ご参考)

【双極性障害について】

双極性障害は、衰弱性の感情起伏のため重篤な精神障害とされ、米国において約 570 万人の成人が罹患しています。双極性障害うつは、双極性障害の患者さんがうつ症状を呈している状態です。双極性障害うつの症状として、極端な悲しみ、不安、疲労、無気力、無関心、睡眠パターンの乱れ、絶望が報告されています。双極性障害の多くの患者さんは、躁症状よりもうつ症状を呈する傾向があります。また、双極性障害は、肥満、糖尿病や心臓病など、様々な病状からの早期死亡リスクを倍増させる可能性があります。双極性障害は世界で障害の主要原因の 6 番目に挙げられています。

【LATUDA[®]（一般名：ルラシドン塩酸塩）について】

LATUDA[®]は、2010 年 10 月 28 日（米国時間）に米国食品医薬品局（FDA）より統合失調症に対する承認を取得した非定型抗精神病薬です。LATUDA[®]の初回推奨用量は 1 日 40mg で、1 日最大推奨用量は 160mg です。

以上